

(別添6-2)(用紙寸法は、日本工業規格A列4とする。)

成果報告書

1. 事業の題名

「 KOBE しあわせの村ユニバーサルカレッジ 」

2. 委託事業の実施期間

令和3年6月9日から令和4年3月10日まで

3. 任意で実施する取組(実施する場合のみ、○を記入)

ブロック別コンファレンス

→実施する場合のみ、○を記入すること

4. 委託先組織の構成

(下記①②に必要事項を記載するほか、団体等の組織図など、組織体制の全体像が分かる資料を別途添付すること。)

①組織の主要構成員(役員等)

氏名	所属・役職等	備考欄
三木 孝	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 会長	
川田 誉史子	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 常務理事	
後藤 徹也	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 常務理事	
金山 千洋	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 理事 立命館大学 産業社会学部 教授	
古和 久朋	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 理事 神戸大学大学院保健学研究科 教授	
武田 良彦	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 理事 公益財団法人神戸新聞厚生事業団 専務理事	
西垣 千春	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 理事 神戸学院大学総合リハビリテーション学部 教授	
西田 勉	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 理事 公益大団法人神戸YMCA 常勤理事	
羽原 好一	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 理事 社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団常務理事	
丸一 功光	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 理事 一般財団法人神戸在宅医療・介護推進財団常務理事	

水野 ひろみ	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 理事 前神戸市PTA協議会 副会長	
佐藤 毅	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 監事 株式会社三井住友銀行公務法人営業第二部副部長	
瀬尾 文洋	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 監事 税理士	
生安 衛	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 兵庫県健康福祉部社会福祉局長	
大辻 正忠	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 一般社団法人神戸市老人クラブ連合会 理事長	
谷村 誠	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 兵庫県社会福祉法人経営者協議会 会長	
玉田 敏郎	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 社会福祉法人神戸市社会福祉協議会 理事長	
津田 佳久	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 神戸商工会議所 常務理事	
福住 美彌子	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 神戸市民生委員児童委員協議会 副理事長	
松端 信茂	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 神戸市知的障害者施設連盟 会長	
村岡 章弘	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 一般社団法人神戸市医師会 副会長	
森下 貴浩	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 神戸市福祉局長	
山口 康志	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 神戸労働者福祉協議会 事務局長	
山本 孝子	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 神戸市婦人団体協議会 会長	

②事業推進担当者

事業内容について、協会内に学識経験者、医療・福祉関係者による「KOBE しあわせの村ユニバーサルカレッジ実行委員会」を設置し、専門的な知見や当事者の視点から運営手法やプログラム企画の検討を行なった。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、会議開催に当たってはオンライン開催を併用した。

実行委員会(令和4年3月現在)

氏名	所属・役職等	備考欄
三木 孝	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 会長	委員長
後藤 徹也	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 常務理事	
川田 誉史子	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 常務理事	
岡本 正	株式会社 WAP コーポレーション 代表取締役	

澤田 敏夫	公益財団法人産業雇用安定センター 参与 前公益社団法人 全国障害者雇用事業所協会 理事兵 庫県支部長	
笹森 理絵	精神保健福祉士 ※	
近藤 武夫	東京大学先端科学技術研究センター 准教授	
飯島 久道	社会福祉法人神戸市社会福祉協議会 新規事業推進担 当局長	
河崎 洋子	社会福祉法人 芳友 にこにこハウス医療福祉センタ ー 施設長	
西垣 千春	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 理事 神戸学院大学総合リハビリテーション学部 教授	
水野 ひろみ	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 理事 神戸市PTA協議会 副会長 ※	
南 謙二	特定非営利活動法人社会還元センターグループ わ 理事長	
宮野 愛子	株式会社ライフ・シンセリティ 代表取締役	
吉田 茂之	美津濃株式会社 しあわせの村屋外スポーツ施設 支配人	
奥山 隆彦	株式会社ウエルネスサプライ しあわせの村温泉健康センター 総支配人	
実平 典子	新明和ハートフル株式会社 取締役	
柳 有香	兵庫県印刷工業組合副理事長 共栄印刷株式会社 代表取締役 社長	
児玉 明子	児玉明子税理士事務所 所長 税理士	監事
受講生の中から希望する2名が参画 ※		

※家族を含む障がい当事者

5. 事業の実施に係る全体像

(地方公共団体と民間団体との具体的な連携内容を含め、連携先や再委託先の関係、本実践研究事業の実施に係る実施体制の全体像について図示すること。また、本事業全体を通じた目標の達成状況や、本事業終了後の目指す方向性等についても触れること。)

1. 理念・目標・取り組みの柱

【理念】

「障がい者の生涯学習の機会創出を通じて、障がい者が自立や社会参加に向け学び続けることのできる社会の実現に寄与すること」を本事業実施における理念とした。

【目標】

理念の実現のため、カレッジの運営について以下の3つの目標を定めた。

- ①社会的自立に向けた知識、一般教養を身に付ける生涯教育の場の実現
- ②学生が自らの主体性を育み発揮する生涯教育の場の実現
- ③社会性を育み仲間づくりを実現する生涯教育の場の実現

【取り組みの柱】

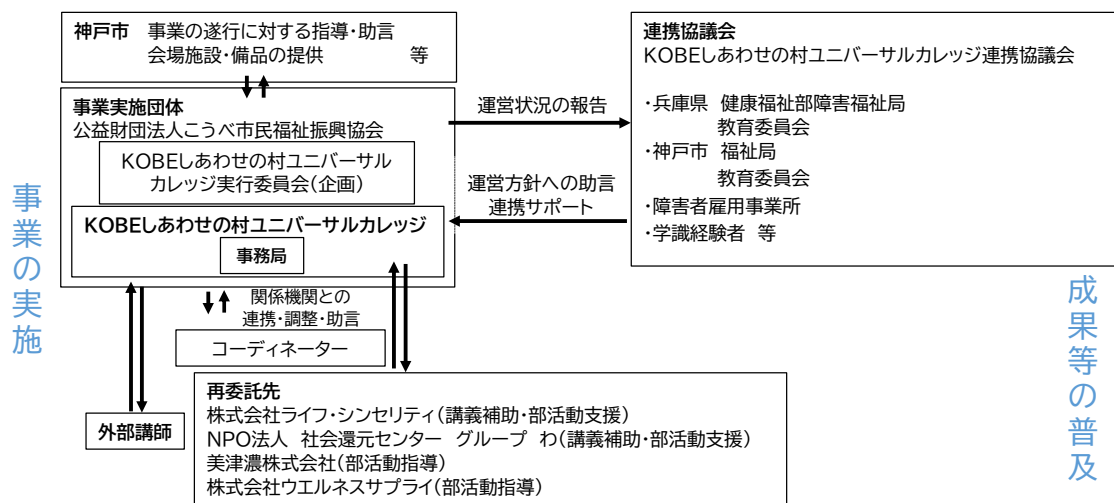
各目標の達成のため、講座運営においては以下の3つを取り組みの柱とした。

目標①について…学生の興味関心の幅を広げる幅広い分野の講義を提供する

目標②について…一部の講義や部活動の種目について受講生が自ら選択する機会を設ける

目標③について…部活動及び世代間交流の時間を設ける

2. 実施体制



事業期間の3年間をかけて運営手法やプログラムの開発を段階的に進め、事業終了後も、こうべ市民福祉振興協会の事業として持続的に実施できるモデルを研究する

(1) 実行委員会 (7回実施)

当事業の企画・実施にあたっては、障がい者の学校教育期から卒業後にかけての教育・医療・福祉・労働・生活に対する広範な知見が不可欠であるため、企画の検討と実施の主体として公益財団法人こうべ市民福祉振興協会に、学識経験者、医療・福祉関係者、家族を含む障がい当事者「KOBELしあわせの村ユニバーサル実行委員会」を設置した。

委員会ではカリキュラムや運営手法について企画・検討し、毎回の実践結果について自己評価を行ない、手法のブラッシュアップを重ねた(計7回実施)。また当事者の参画を図り、希望する受講生2名が11月より会合へ出席し、講座の感想や改善点の有無、学びたいテーマ等について

意見を交換した。

(2) 連携協議会(3回実施)

学識経験者、行政(県・市による教育・医療・福祉)、障がい者雇用事業所等により構成される連携協議会を設置し、事業の実施内容について専門的な知見からの助言を適宜行い、実行委員会によるカリキュラムや運営手法に関する自己評価について検証・評価を行った(計3回実施)。

(3) コーディネーター

連携協議会委員でもある「しあわせの村ユニバーサルコーディネーター」については、教育委員会等関係機関との連携のほか、特別支援教育について有する高い見識をもとに各運営事業者(再委託先)への指導・助言を行う等当事業全般にわたるコーディネートを担った。

(4) 再委託先

①株式会社ライフ・シンセリティ

…運営する就労継続支援B型事業所「カレッジ・アンコラージュ」より事業所利用者が毎回3名程度出役し、設営の補助、受付等の運営補助業務にあたったほか、一部の部活動や世代間交流行事では、受講生とともに活動に参加し、交流の機会ともなった。また、同事業所のスタッフは、「クラス担任」として受講生の一体感を醸成し交流を促した。また、必要に応じ受講生との接し方について他のスタッフにアドバイスする等、円滑なコミュニケーションに寄与した。支援員はそれぞれの特性を把握し細やかな目配りを行なうことで安全な事業実施の下支えとなった

②特定非営利活動法人社会還元センターグループ わ

…講座開催場所とした神戸市の高齢者生涯学習施設「神戸市シルバーカレッジ」の卒業生が中心となって設立されたボランティア組織であり、毎回の講座においてライフ・シンセリティ社と共同で、設営、登下校の安全確認、講義中の補助などの運営補助を担った。

また、いかに発揮されるホスピタリティにより、何か困りことがあればスタッフに気軽に声をかけられる関係性が構築され、受講生が安心して受講できる環境作りに寄与した。…世代間交流行事のインストラクターとして同グループ内の「マジック(手品)クラブ」「笑い届隊」の参加を得、公民館や小学校等での交流イベントの経験を生かし、ゲームやグループワーク(巨大折り鶴作り)等を通じて世代間や受講生同士の交流を図った。

③美津濃株式会社

…運動施設・教室運営経験に基づく安全への配慮、障がい者スポーツについて有する知識と経験に基づく活動内容の立案や指導者の選任を行い、参加者の交流が深まる部活動運営を行った。

④株式会社ウェルネスサプライ

…運動施設・教室運営経験に基づく安全への配慮、障がい者スポーツについて有する知識と経験に基づく活動内容の立案や指導者の選任を行い、参加者の交流が深まる部活動運営を行った。

(5) 神戸市

神戸市は、会場施設(神戸市シルバーカレッジ)および設備備品の提供や、フォーラムの周知等を行ない、事業に主体的に協力した。

7/24 開講式 久元喜造神戸市長来賓あいさつ



3. 本事業終了後の目指す方向性

事業期間を通じ運営手法やプログラムの開発を段階的に進め、事業終了後も公益財団法人こうべ市民福祉振興協会の事業として持続的に実施できるモデルを研究する。

6. 事業の実施結果

(1) 効果的な学習プログラムの実施

①実施の経過（具体的な内容は6.（1）②に記載すること。）

4月	
5月	
6月	
7月	開講式・第一回講義(第四土曜日)
8月	※当初第二回講義(調理実習を含む)を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の流行状況を踏まえ11月に延期した。
9月	第二回講義(第二土曜日)
10月	第三回講義(第二土曜日)
11月	第四回講義(第三土曜日)
12月	第五回講義(第三土曜日)
1月	
2月	第六回講義・閉講式(第三土曜日)
3月	

②具体的な内容

(効果的な学習プログラムに係る取組内容を具体的に記載すること。学習講座や活動等を開催した場合、実施スケジュールや内容、多様な者との交流や共同学習など共生社会の実現に向けた取組、障がい者本人の意見の反映や自主的な活動の促進、外部講師招聘及びボランティアスタッフ活用の有無、参加対象者のターゲット(障がい種・属性・活動規模等を含む。)等を記載すること。また、結果として、効果的な学習プログラムを提示し、根拠とともに記載すること。なお、実施結果を踏まえ今後さらに検討すべき点や課題等についても触れること。)

1. 対象者について(開講時想定 と 令和3年度受講実績)

(1) 開講時想定

- ①「対象者の障がい種等にあらかじめ制限は設けず、受講者の具体の障がいに応じた支援の手

段を用意する」ことを方針として開講した。

②通年受講 20 名程度(介助者は員数外)を見込んだ。

(2) 令和 3 年度受講実績(通年受講生 27 名について)

1. 年齢別

18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	計
1	5	4	1	2	1	2	1	5	0	2	0	3	27
6		11						10					

2. 男女別

男性	22	女性	5	計	27
----	----	----	---	---	----

3. 療育手帳程度別

A	B1	B2	計
3	12	12	27

講座内容の対象として想定していた「軽度から中度の知的障がい者」が、結果として実際の受講生の太宗を占めた。

(3) 「スポット受講」について

受講生同士の交流を深めるため通年の受講を原則としたが、会場の収容人数や運営体制の確保が出来る限り、希望者の事情に応じ特定の回のみを受講を受け入れた(スポット受講生)。

実績としては申込 4 名(実際の受講は 3 名)となったが、アンケート結果からは特定回のみを受講にも一定のニーズがあることが見て取れる。次年度も引き続き受け入れることを検討する。

(家族向けアンケートより)

★1 回からでも参加できるのが、こだわりのある子にとって参加しやすかったです。

2. 実施内容

(1) 講座概要

① 1 日の時間割

基礎的な教養講座とホームルーム活動、部活動、世代間交流行事などを組み合わせて実施した。

時間割	
9:00	受付、ホームルーム
9:35	講義 1
10:35	休憩
10:45	講義 2
11:45	ホームルーム
12:00	昼食
13:00	部活動、世代間交流行事 [15時終了]

- ・ 始業、終業(講義終了時)にホームルームを実施し、配置した「担任」のもと連絡事項の伝達やアンケート調査記入の時間とした。
- ・ ホームルーム、講義、休憩時間、昼食、放課後(部活動)と、学校生活を模した形態となったことで「クラス」の一体感を醸成し、相互の交流を促した。

②年間の実施スケジュール

就労する受講生の参加を容易とするため各回の開催は土曜日とした。

毎回午前中の講義に加え、9月10月11月の計3回は午後部活動を実施、7月12月の2回は午後世代間交流行事とした。

7月(7/24)	□講義：文化人類学入門 □世代間交流授業① マジック(手品)
8月(8/21)	□講義・調理実習：調理を通じて学ぶインド文化 → 11月に延期
9月(9/11)	□講義：化石のレプリカ標本を作ってみよう □講義：王子動物園再発見 □部活動：種目は各自選択
10月(10/16)	□講義：日本の鉄道—阪急・阪神電車の歴史 □講義：川崎重工業の創る未来 □部活動：種目は各自選択
11月(11/6)	□講義：調理を通じて学ぶインド文化(講義 + 調理実習) □部活動：種目は各自選択
12月(12/18)	□講義(A)：写真の魅力—自然を、人を、景色を自由に撮ってみよう— □講義(B)：ダンスを楽しもう—コンテンポラリーダンスで自己表現— □世代間交流授業② 巨大折り紙を通じて交流
1月	
2月 講義：2/12 フォーラム：2/26	□講義：神戸の歴史と文化—源平合戦と福原遷都 □閉講式 □実践発表フォーラム (@神戸市教育会館大ホール)
3月	

(2) 講義（興味関心の広がり）

①特色

受講生の興味関心の幅を広げるため、在学中には学ぶ機会がなかった人文学、自然科学、表現・芸術等さまざまなテーマの講義を開講した。

テーマの広範さに加え、化石レプリカ作り、調理実習(カレー)、ダンス、写真撮影、といった実技実習を交えた多様な講義形態を導入した。

②運営上の工夫

(ア) 資料における視覚支援を意識し、受講生の理解の助けとした。

(イ) 受講生からの質問を受ける「質問タイム」や、講義内容に関するクイズを出題しつつ進行する等、双方向性を意識した。

質問タイムの様子



クイズの様子



アンケート調査にて、「講義内容が分かった」「講義内容に興味関心を持った」と答えた受講生の割合は回を通じて高く、また自由記述欄では講義での気づきやもっと知りたいことを記述する回答が多くあり、興味関心の触発や学びの経験を得たことが見て取れる。

1~6回講義平均値

先生の話が分かった	先生の話に興味を持った
88.9%	85.3%

(講義毎のアンケート調査 自由記述より)

★ペンギンのはんしょく期や、エサは何の魚をあげているのか教えてほしいです
(9/11・動物)

★むかしのことをして見て今とちがうんだなあと思いました(10/16・鉄道)

★インドでは、カレー以外に何を作っているのかが気になりました(11/6・インド文化)

(3) 部活動(仲間づくり)

しあわせの村の充実した運動施設を活かした運動系部活動を5種目実施し、受講生同士の交流の場とした。

スポーツ部(ノルディックウォーキング)

ダンス部

参加 受 講 生 と 種 目 と 数	スポーツ	6
	ダンス	8
	テニス	4
	卓球	7
	ボクシング フィットネス	2



※テニスや卓球等特定の競技種目を志向しない受講生に対しては、ドッジビーやノルディックウォーキング、ミニサッカー等、毎回異なるメニューで気軽に参加できる「スポーツ」部を設けた。

→部活動によって交流が深まる様子がアンケート調査結果でもうかがえる。

部活動は楽しかった	部活動の仲間と仲良くなった	部活動をずっと続けたい
96.2%	88.5%	73.1%

(アンケート自由記述より)

★みんなと楽しく踊れて、新しい自分にも出会えたと思いました(ダンス部)

★仲良くできた(卓球部)

(4) 世代間交流行事(多様な人々との交流や共生社会の実現に向けた取り組み ①)

神戸市の高齢者生涯学習施設「神戸市シルバーカレッジ」の卒業生を中心に構成される「NPO 法人社会還元センターグループわ」内の「マジック(手品)クラブ」「笑い届け隊」の参加を得、公民館や小学校等での交流イベントの経験を生かしたゲームやグループワーク(巨大折り鶴作り)等を通じて世代間や受講生同士の交流の機会とした(2回実施)。

左: マジック大会(7/24)

右上: マジック大会(7/24)

右下: 巨大折り鶴づくり(12/18)



→交流行事を通じ、異世代とのコミュニケーションや仲間(受講生同士)の共同体験が受講生の印象に残る経験となったことがうかがえる。

	第1回 マジック(7/24)	第2回 折紙等(12/18)
楽しめた	91.7%	91.7%

(アンケート自由記述より)

- ★みんなでマジックしておもしろかった。親にもみせてあげた。(7/24 実施)
- ★巨大折り鶴って、協力し合うことが大事だと分かった。(12/18 実施)

(5) 運営の多様性 (多様な人々との交流や共生社会の実現に向けた取り組み ②)

①高齢者ボランティアスタッフの配置

講座開催場所とした神戸市の高齢者生涯学習施設「神戸市シルバーカレッジ」の卒業生が中心となって設立されたボランティア組織「NPO 法人社会還元センターグループわ」より、毎回の講座においてライフ・シンセリティ社と共同で、設営、登下校の安全確認、講義中の補助などの運営補助を担った。また、いかに発揮されるホスピタリティにより、何か困りことがあるればスタッフに気軽に声をかけられる関係性が構築され、受講生が安心して受講できる環境作りに寄与した。

講義補助の様子 (一緒に楽しみつづ、困ったときには寄り添いサポート)



→「グループ わ」にとっても、障がい者に対する理解が深まる経験を得たメンバーがいたことがうかがえる。

(アンケート 参画にあたり当初不安に感じていたことはあったか 自由記述)

★特にない

★上手く会話が出来るか

(アンケート 当初と比べ受講生に対する認識や接し方にあつた変化等 自由記述)

★普通に接しているので特別認識していない

★本人たちを知ることで変化がありました。お互いに話し合う場が必要

②障がい当事者同士 特に同年代や「先輩」との交流

株式会社ライフ・シンセリティの運営する就労継続支援B型事業所「カレッジ・アンコラージュ」より、事業所利用者が毎回3名程度出役し、設営の補助、受付等の運営補助業務にあつたほか、一部の部活動や世代間交流行事では、受講生とともに活動に参加し、交流の機会ともなつた。

受付の様子(紺色のユニフォームが事業所利用者)

世代間交流行事への参加の様子(同左)



→参画した事業所利用者にとっても有意義な経験であったことが、同行した支援者へのアンケートから見て取れる。

(アンケート B型事業所の利用者(研修生)の参画が有意義だったと思われる理由など 自由記述)

- ★受付、会場準備、昼食の準備、部活動の補助など幅広い仕事内容を1日かけてさせていただいたこと
- ★部活動や世代間交流に参加させて頂けたことで同年代の受講生もですが、グループわの皆さん、笑いとどけ隊のみなさんと世代を超えて交流させていただけたこと。
- ★大人数でチーム位になって連携してお仕事をさせていただくという機会がこれまでほとんどなかったの、その中の一人として働けたこと
- ★こうべ市民福祉振興協会のみなさん、グループわのみなさんが、仕事をサポートしてくださる中でお仕事が出来たこと

3. 障がい者本人の意見の反映や自主的な活動の促進

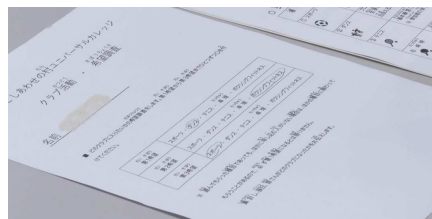
(1)部活動種目、一部の講義カリキュラムについて、本人の興味関心に応じ選択制とした。

①部活動の選択(スポーツ・ダンス・テニス・卓球・ボクシングフィットネス)

7/24部活動オリエンテーションにて各部紹介の後、希望調査を実施した。

オリエンテーションでの卓球部の紹介

希望種目調査票



②講義の選択(第5回講座)

12月の講座を「A 写真の魅力」と「B ダンスを楽しもう」から選択して受講。

写真講義(実技)の様子

ダンス講義(実技)の様子



→文化系部活動等、部活動種目の選択肢を広げるほか、受講生の主体的な学びに向けた取

り組みとして、ホームルーム活動で行事の企画・実行（バーベキューやクリスマス会、学習発表会等）を検討する。

(2) 実行委員会への受講生の参画

希望する受講生2名が11月より会合へ出席し、講座の感想や改善点の有無、学びたいテーマ等について意見を交換した。

第4回実行委員会（11/2）の様子（右上画角内、右2名が受講生）



→受講生が参加しやすい会議日程や連絡方法、会議出席時の資料や説明の補足等については課題として継続的に手法を研究する。

(3) アンケート調査にて当事者の意見の調査・反映

アンケートにて「新たに学んでみたいこと」「やってみたい部活動」「講義時間は長いかな」等、調査を行ない受講生も参画した実行委員会にて検討をおこなった。

今後希望する講義テーマ・新しく知りたいこと (自由記述より一部抜粋)		反映
JR の歴史、山陽電車の歴史、オーストラリアについて、イラストの書きかた、中華料理の実習、コーヒーについて、動画の撮りかた、寺社、旅行、水の生き物、植物 …		→ 講義テーマ選定の参考とする
60分講義は長かったか	あつという間 短くくらい 87.5% そうでもなかった	→ 60分という時間設定は○

4. その他実施事項（新型コロナウイルス感染症拡大防止対策）

①受付時の検温、体調確認の実施並びにマスク着用、手指消毒をスタッフの声掛けをこまめに行い確実に実施した。

②緊急事態宣言発出等外出制限が必要な状況又は本人及び家族の状態により実際の登校が難しい場合に於いても学びの機会を継続的に提供するため毎回の講座についてオンライン同時配信とした（Zoomのウェビナー機能を使用）。

→外出が難しい受講生にも受講機会を提供できたが(1名)、接続方法等のわかりやすい案内や、オンライン参加時の双方向性の確保については十分な蓄積ができず、次年度に向けた継続的な研究課題とする。

5. 実行委員会による自己評価

上記のプログラム実施結果に対し、アンケート調査結果を踏まえ実行委員会にて自己評価を行った。

※事業評価及びアンケート調査結果詳細については別添資料参照

(2) 連携協議会の開催及び効果的な実施体制や関係部局・民間団体等との連携体制の構築

①連携協議会の構成員

氏名	所属・役職等	備考欄
植戸 貴子	神戸女子大学 健康福祉学部 教授	委員長
上野 昌稔	神戸市教育委員会事務局 学校教育部 特別支援教育課 特別支援教育推進担当課長	
大本 正巳	公益社団法人 全国障害者雇用事業所協会 副会長	
小林 令伊子	神戸市福祉局 副局長	
村松 好子	兵庫県特別支援学校校長会 会長	
崎濱 昭彦	兵庫県健康福祉部障害福祉局 局長	
本條 誠	神戸市立特別支援学校校長会 会長	
高田 哲	神戸大学名誉教授 神戸市こども家庭局総合療育センター診療担当部長	
松端 信茂	一般社団法人兵庫県知的障害者施設協会 会長	
松原 建二	社会福祉法人かがやき神戸 理事長	
森崎 康文	神戸市立ワークセンターひょうご 所長	
奥脇 学	前公益社団法人全国障害者雇用事業所協会 理事 近畿ブロック長	
角野 寛典	株式会社KEGキャリア・アカデミー 代表取締役社長	
村田 淳	京都大学学生総合支援センター障害学生支援ルーム 准教授	
三木 孝	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 会長	
赤木 和重	神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授	
信田 敏宏	国立民族学博物館 グローバル現象研究部 教授	
高田 雅光	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会しあわせの村ユニバーサルコーディネーター 前 神戸市教育委員会事務局学校教育部特別支援教育課主任指導員	

②連携協議会事務局構成員（4. ②の担当者の兼務可。また、事務作業スタッフを除く。）

氏名	所属・役職等	備考欄
後藤 徹也	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 常務理事	
川田 誉史子	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 常務理事	
平塚 得生	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 企画運営本部 経営管理課長	

北尾 憲	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 企画運営本部 総務担当課長	
畑野 健一	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 企画運営本部 経営管理課	

③連携協議会の開催及び効果的な実施体制や関係部局・民間団体等との連携体制の構築の実施経過（具体的な内容は6.（2）④に記載すること。）

4月	<p>第1回連携協議会（年度計画についての評価・助言）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・各回講義の観覧（もしくはオンライン配信） ・各回の（講義以外の一日を通じた）実施内容ダイジェスト動画及び講義の配信動画を委員会限定のアップロードサイトにて共有。 </div>	
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		第2回連携協議会（評価方針・各アンケート調査結果の検討） →各委員フォーラム広報に協力
2月		連携協議会・実行委員会共催として実践発表フォーラムを開催
3月		第3回連携協議会（成果報告書案の検討）

④具体的な研究内容

（連携協議会における議論内容、検討結果等を記載するとともに、「どのような者と連携すると効果的な実施体制・連携体制が構築できるか」等に関する分析・検証を行い、具体的な実施体制・連携体制等のモデルを提示すること。その際、自立や社会参加・就労等に関わる具体的なデータ・調査結果・事例等のエビデンスに基づく事業成果の分析・検証結果もあわせて記載すること。なお、実施結果を踏まえ今後さらに検討すべき点や課題等についても触れること。）

1. 連携協議会の活動

(1) 毎回講座内容のフォローアップ

- ・各回講義の観覧（もしくはオンライン配信）
- ・各回の（講義以外の一日を通じた）実施内容ダイジェスト動画及び講義の配信動画を委員会限定のアップロードサイトにて共有。



(2) 事業の検証・評価

受講生アンケート結果、障がい当事者を含む実行委員会による自己評価を踏まえ、事業について分析・評価した。評価にあたり評価軸として下記2点を定め、うち②については目標（本成果報告書5.1記載）に応じた3つの指標（ア・イ・ウ）に細分して検討を行なった。

【各評価項目における 評価基準は下記のとおり】

- ・ 指標の達成・未達成による評価（達成できた＝○ 達成できなかった＝×）
- ・ 指標の達成度合による評価（A B C 3段階評価）

※アンケート調査の当該指標に係る回答において、
80%以上＝A 60%以上 80%未満＝B 60%未満＝C

①学校から社会への移行期の障がい者への学習機会の創出

→評価：「○達成できた」（本年度実績 受講者数 30名（うち3名スポット受講）

<委員の意見>

★サードプレイスとしてのユニバーサルカレッジ（松端委員 第2回連携協議会）

サードプレイス、部活動を通じた人間関係の広がりとして初年度十分に機能できていると感じる。

②学園生活を通じて受講生が獲得する力の維持・開発・伸長

(ア)知識や興味の広がり(知識 教養)

i)多彩なテーマによる講義プログラムの提供

→評価：「○達成できた」

ii)カレッジ受講を通じて新しいことを学んだ受講者数

→評価：「達成度 A」

iii)異なる講義のテーマに対し、興味関心を持つ経験をした受講生数

→評価：「達成度 A」

<委員の意見>

★「学校現場」にも生かしたい講義手法（上野委員 第2回連携協議会）

例えば写真の講義のように、先生から表現の仕方を教わって、自分で実践し、その成果をみんなに発表するという学びの経験は、学校現場でもぜひやってみたいと思わせる実践だった。

★知的障がい者にとっての学びのニーズを考えるきっかけに（赤木委員 第2回連携協議会）

「すぐに役に立つわけではない教養」に対する受講生の受容の様子やアンケート調査結果を見ると、学校教育を含め、知的障がいある生徒にとっての「学びのニーズ」について考え直すきっかけとなった。

(イ)学ぶ意欲の向上(自立性 主体性)

i)主体的な科目選択の機会の創出

→評価：「○達成できた」

ii)カレッジ運営への参画機会の創出

→評価：「○達成できた」

iii)学びの場への参加を今後も希望するか

→評価：「達成度 A」

(ウ) 様々な人との交流経験の積み重ね (コミュニケーション能力 社会性)

i) 受講生同士の交流機会としての部活動の実施

→評価：「○達成できた」

ii) 異なる世代間との交流機会としての世代間交流授業の実施

→評価：「○達成できた」

iii) グループや班による共同学習、体験機会の創出

→評価：「○達成できた」

iv) カレッジで仲間や友人が出来た受講生数

→評価：「達成度 A」

v) 受講生家族のユニバーサルカレッジへの評価

→評価：「達成度 A」

vi) 受講生所属先(職場・事業所)のユニバーサルカレッジ

→評価：「達成度 A」

※その他付随的に見出された点

「スタッフによる入口支援へのニーズ」

…困った様子を見せる受講生がいれば、講義中であってもスタッフが積極的に声をかけサポートしたことが、「主体的にカレッジのカリキュラムに取り組むための入口支援」として、受講生にとっても必要なものとして認識されていることが見て取れた。

(まとめのアンケート スタッフがいてくれてよかった時は? 受講生回答)

★複数回答：登下校 7 講義中 16 部活動 14 世代間交流 11 特になし 3

(まとめのアンケート 支援したシーンは? 運営参画事業者1グループわ ライフ・シンセリティ回答)

★複数回答：登下校 7 講義中 6 部活動 5 世代間交流 7 その他 5

※アンケート調査結果詳細については別添資料参照

2. 効果的な実施体制・連携体制 について

特別支援学校、障がい者が働く企業や就労支援事業所、支援機関、行政が連携することで、学校教育から卒業後における学びへの接続の在り方についての議論を深めることが出来た。

<委員の意見>

★支援学校在学中から意識的に卒業後の学びの機会につなぐことが必要(上野委員 フォーラム)

・ユニバーサルカレッジの成果について、特別支援学校は様々な学習機会に関する情報提供として高等部の生徒を中心として、伝えていく必要がある。

・在学中から生徒の特性を把握し、主体的に外界へ向かう力に課題がある場合は、「個別の教育支援計画」等を活用し、ユニバーサルカレッジ等のプログラムに参加できるようにつないでいくことが大切である。

★家族を含めた学齢期の障がい児への目配り(高田哲委員 第2回連携協議会)

主に学齢期の療育の現場にいるものとして、家族は先々のライフステージに不安があるので、このように学校卒業後も集まって学ぶ場が保障されているという情報があるの

は励みになる。

★「仕事上の勉強ではない」学びの場に参加ニーズは増えるだろう→企業との連携（大本委員 第2回連携協議会）

「企業での仕事としての勉強ではない」学びと交流の場になっていると感じる。参加者の話を聞いて、周りの社員も参加してみたいという声が多くなっている。

（参考：受講生所属先アンケートより）

③カレッジの話題をするときの受講生の様子		④学びの場へ受講生が参加することについてどう思うか	
とても楽しそう 楽しそう	16	とても良い 良い	16
あまり楽しそうではない 楽しそうではない	0	あまり良いと思わない 良いと思わない	0
無回答	0	無回答	0
計	16	計	16

とても楽しそう
楽しそう 100.0%

とても良い
良い 100.0%

3. 今後の事業への反映

→受講生の意見の反映については下記のような方向性で、引き続き課題として研究する。

(1) 事業目標「学ぶ意欲の向上(自立性・主体性)」の一層の促進として

★受講生の主体的な取り組みの拡充の検討

令和4年度計画として、ホームルーム活動で行事の企画・実行（バーベキューやクリスマス会、学習発表会等）等、自ら企画し発信する機会を検討する。

→事業の目標として掲げる「学ぶ意欲の向上(自立性・主体性)」

(2) 事業目標「様々な人との交流経験の積み重ね(コミュニケーション能力 社会性)の拡充として

★部活動種目拡充を検討(文化系部活動 等)する。

<委員の意見>

★今年度の実践に立ちコンセプトの再確認・精査を

(植戸委員長 第2回連携協議会)

例えば子育て世代のために「子育て中の人ばかり」が集まる場と、「子育て世代を含めた多世代が集まる場」の両方がある方がいいのと一緒に、こうした場(居場所)には2つの種類があると思う。「いろいろな人が一緒に学ぶ場」「障がいのある人のニーズに特化した学びの場」という2つに整理してコンセプトを練り直すということも今後必要ではないか。

(崎濱委員 第2回連携協議会)

次年度以降この事業の中心に「学び」か「遊び(交流)」のどちらを据えていくのか、精査していくと新たな展開がみられるのではないか。

★学びの場の広げ方(近藤委員 ※実行委員 補足意見)

「いろいろな人が一緒に学ぶ場」としての展開を考えると、知的障がいの隣接領域(グ

レーゾーン)を次の対象にするという広げ方と、運営に大学生などを入れて、多様な学びがあることを知ってもらう中で、インクルージョンの道を増やすという方法などが考えられる。

(3) コーディネーター・指導者等の配置やボランティアの育成・活用等の検討

① コーディネーター・指導者等 (任意)

コーディネーター		
氏名	所属・役職等	備考欄
高田 雅光	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会しあわせの村ユニバーサルコーディネーター 前 神戸市教育委員会事務局学校教育課特別支援教育課主任指導員	元神戸市教育委員会事務局特別支援教育課指導主事 元神戸市立友生支援学校校長 元神戸市立特別支援学校長会長 特別支援教育課主任指導員として神戸市立特別支援学校在籍生徒に対する就労支援事業等に長年携わる。
指導者		
氏名	所属・役職等	備考欄
田辺 真人	園田学園女子大学 名誉教授	ニュージーランド国立大学勤務後、園田学園女子大学教授を経て同大学名誉教授。地域史研究に対して兵庫県文化賞・宝塚市市民文化賞・神戸市文化賞・ロドニー賞、教育功勞に対して文部科学大臣表彰・兵庫県教育功勞者表彰受賞
文 (あや)	NPO法人DANCEBOX事務局 ダンサー	2009年新長田にArtTheater dB KOBEを開設。国内外のダンス作品の紹介やアーティスト育成、教育や地域と協働した創造的な事業を展開。
吉田 岳彦	阪神電気鉄道株式会社 監査役グループ	阪急阪神ホールディングス株式会社の特例子会社である株式会社あしすと阪急阪神取締役を経て、現在阪神電気鉄道株式会社の監査役スタッフ。
信田 敏宏	国立民族学博物館 グローバル現象研究部 教授 みんなくSama-Sama塾」主宰	社会人類学博士 (東京都立大学 2002) 東京都立大学人文学部社会学科助手を経て、2003年より民博。2017年より現職。
岩本 順平	一般社団法人 DOR 代表 写真家	2012年写真事務所を設立。2017年一般社団法人DOR設立。デザインやアートの地産地消をテーマに神戸市にて活動。
バシン 晴美	株式会社バシンホールディングス 代表取締役	1997年神戸北野にインドカレーの店「神戸アールティ」を開店以来7店舗を経営
生野 賢司	兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境評価研究部地球科学研究グループ/企画・調整室研究員	横浜国立大学大学院環境情報学府博士課程後期修了。博士(学術)。日本古生物学会、日本地質学会、日本動物分類学会、日本地球惑星科学連合所属
竹原 孝弘	神戸市立王子動物園 副園長	神戸市立王子動物園 副園長
澤田 敏夫	公益財団法人産業雇用安定センター 一参与 前 川重ハートフル株式会社 取	川崎重工業株式会社の特例子会社として2013年9月に設立され、一般事務請負や清掃業務を行なう同社の取締役を経て現職。

	締役:	
吉川 史浩	一般社団法人 WGM 代表理事	元特別支援学校保健体育講師。 ツリーインゲインストラクター。一般社団法人 WGM 設立。車いすによるツリーイング(木登り)等、障がいの有無に関わらず自然活動を提供する。冒険教育指導者 レスキュー3(テクニカルロープレスキュー) 資格取得

②実施経過（具体的な内容は6.（3）③に記載すること。）

4月	
5月	
6月	
7月	開講式・第一回講義(第四土曜日)
8月	講師事前打ち合わせ
9月	第二回講義(第二土曜日) 講師事前打ち合わせ
10月	第三回講義(第二土曜日) 講師事前打ち合わせ
11月	第四回講義(第三土曜日)
12月	第五回講義(第三土曜日)
1月	講師事前打ち合わせ
2月	第六回講義・閉講式(第三土曜日)
3月	

③具体的な内容

(コーディネーター・指導者等の配置やボランティアの育成・活用等に係る検討結果等を記載すること。また、「どのような専門性を有する者がコーディネーター・指導者等の役割に適しているか」、「具体的にどのように配置・活動すべきか」等に関する見解もあわせて記載すること。なお、検討結果を踏まえ今後さらに検討すべき点や課題等についても触れること。)

<p>1. コーディネーター</p> <p>長年教育者として地域における特別支援教育と障がい者就労について携わった経験を有するコーディネーターを配置し、教育部局・民間団体等との連携を図った。</p> <p>運営に係る再委託先や外部講師との打ち合わせにおいても、コーディネーターの持つ経験・知見が発揮され、適切な受講生への配慮等、特別支援教育の経験を活かした運営上の指導助言を行うことができた。</p> <p>2. 指導者（外部講師）</p> <p>(1) 講座講師</p> <p>講師として、受講生の興味関心に応えられる幅広い知識や経験を有しているものを選任した。障がい者への指導経験がない指導者については下記の点を共有することで受講</p>

生の理解をたすけ、興味関心を持つ講義運営を心掛けた。

- ・資料における視覚支援の必要性
- ・受講生からの質問を受ける「質問タイム」や、講義内容に関するクイズをこまめにはさみつつ進行する等、双方向性を意識した構成とすること

(2) 部活動指導者

部活動における外部講師には、安全上の配慮からも障がい者との活動経験のあるものを配置した。部活動においては必ずしも技術の熟達を目標とせず、受講生同士の交流に重きを置いて運営を行った。

(アンケート 受講生同士の交流を促すため留意したこと 部活動指導者 自由記述)

★二人組のワークや、円座でのワークなど。顔が見える関係を作った。(ダンス)

★ラケットでのハイタッチなど、何か頑張った後は、必ずしていました。すると、自然に受講生同士が行うようになりました。(テニス)

★2グループに分け、チーム戦での球当てゲームの練習をしました。応援をし、仲間の成功を喜び、受講生同士の距離が縮まりました。(卓球)

3. その他(スタッフとして関わる中での気づき・共育ち)

(1) グループわ…受講生の主体的な学びを後押しする積極的なかわり

講義の補助・部活動支援等に配置したNPO法人「グループわ」は、神戸市の高齢者生涯学習施設「神戸市シルバーカレッジ」卒業生が中心となって構成されているボランティア組織であり、幅広い知識や経験を有する、意欲ある高齢者集団である。

今回再委託先として参画する上で、運営事務・実務だけではなく受講生とのコミュニケーションを活発に図り、講義や(教室や部活動実施場所への)移動時などに、受講生が「講師が今資料のどの部分を話しているのかわからなくなった」「トイレに行きたい」「次にどこに集合か」といった小さな「困りごと」を気軽にスタッフに声掛けできる雰囲気醸成したことは、主体的な学びをする上での入口支援となった。

翻って「グループわ」のメンバーにとっても今後の活動に資する経験を得た。

(2) ライフ・シンセリティ…受講生と同世代のスタッフとして、また一人の若者として

株式会社ライフ・シンセリティが運営するB型就労継続支援事業所の利用者が運営補助スタッフとして参画した。一部の部活動や世代間交流行事では、受講生とともに活動に参加し、交流の機会ともなった。受講生とグループわのメンバーの世代間交流と相似形をなす、運営スタッフ内においてもB型事業所利用者とグループわの世代を超えた協同体験が、大きな経験となった。

(3) スタッフが受講生と関わるうえでの第1歩を後押しする「経験者」の存在の重要性

株式会社ライフ・シンセリティが運営するB型就労継続支援事業所同事業所のスタッフは、「クラス担任」として受講生の一体感を醸成し交流を促した。また支援員はそれぞれの特性を把握し細やかな目配りを行なうことで安全な事業実施の下支えとなったほか、必要に応じグループわや振興協会職員が受講生との接する上での注意点をアドバイスする等、スタッフと受講生との円滑なコミュニケーション形成に寄与した。

(4) 成果等の普及

①実施経過（具体的な内容は6.（4）②に記載すること。）

4月	
5月	
6月	
7月	SNS 発信 開講についてプレスリリース(NHK・神戸新聞に掲載)
8月	
9月	SNS 発信
10月	SNS 発信
11月	SNS 発信
12月	SNS 発信
1月	ウェブサイトの整備 フォーラム告知
2月	SNS 発信 実践発表フォーラム開催 報告書作成・公開
3月	

②具体的な内容

（成果等の普及に係る取組内容を具体的に記載すること。成果報告会等のフォーラム等を開催した場合、実施スケジュールや内容、参加者の属性（地方公共団体・関係団体・一般等）等を記載すること。（参加者実績については、下記表を参考に記載すること。）なお、取組の結果を踏まえて今後さらに検討すべき点や課題等についても触れること。）

1. ウェブサイトの開設を行ない情報発信のプラットフォームとして活用した。
http://www.kobe-wa.or.jp/universal_college.html



2. 成果報告書（本書）の作成を行なった。また報告書提出後すみやかにウェブサイトへの掲載を行なう。
3. 開催のつど SNS を通じた情報発信を行なった。
こうべ市民福祉振興協会を代表法人とする共同事業体が指定管理者である「しあわせの村」公式 SNS にて開催の都度発信した。

Facebook @shiiawasenomura1989



ツイッター @shiiawase0423



4. より効果的に事業成果を普及するため、動画を作成し、実践発表フォーラムにおいて配信した。(下記ウェブサイトに掲載予定)

http://www.kobe-wa.or.jp/universal_college.html

5. 実践発表フォーラムの開催(連携協議会主催 実行委員会共催)

(1)実施スケジュール

令和4年2月26日実施(参加80人 うちオンライン31人)

土曜日開催により、教員等学校関係者、各事業所関係者の参加を促した。

また、オンライン併催とし、遠隔地または感染拡大防止の観点から外出が難しい希望者にも配慮した。

KOBESHIIAWASE NO MURA YUNIBARUSARUKAREJJI 実践発表フォーラム
～学校を卒業しても仲間とともに学び続ける喜びを～

日時 令和4年2月26日(土)
14:00～17:00(受付13:30～)

会場 神戸市教育会館 6階 大ホール
○手話通訳者を配置します
○オンライン配信あり(詳細は裏面をご覧ください)

主催 支援学校等を卒業した後の学び(生涯学習)と交流の場として、今年度スタートしたKOBESHIIAWASE NO MURA YUNIBARUSARUKAREJJIの実践発表会を通じて、家庭・職場に次ぐ「サードプレイス」として「学びの場」の可能性を一緒に考えたいと思います。

対象 特別支援学校教員等教育関係者、障がい者就労支援所、就労支援関係団体、障がい当事者(本人・家族)、など
参加費無料 ※当日は検閲、マスク着用、非接触式にご参加ください。
※詳細は裏面に記載されています。

お問い合わせ
公益財団法人連携推進協議会 経理管理課
〒651-1106 神戸市北区しあわせの村1-1
電話 078-743-8183 FAX078-743-8180 メール soumu@shiiawasenomura.org

詳細・お申し込みは裏面をご覧ください!
主催 KOBESHIIAWASE NO MURA YUNIBARUSARUKAREJJI 連携協議会・実行委員会

KOBESHIIAWASE NO MURA YUNIBARUSARUKAREJJI 実践発表フォーラム
～学校を卒業しても、仲間とともに学び続ける喜びを～

プログラム	令和4年2月26日(土)14:00～17:00(受付13:30～)
14:00～14:10	開会
14:10～14:30	実践報告① ～心の距離が近い～ 数年前までフットボール部員だった経験から、障がい者に対する理解について報告します。
14:30～15:00	実践報告② ～絆の距離が近い～ 空想、夢をカタチ、目標へと変えていく過程について報告します。
15:10～16:30	パネルディスカッション 上野 真由子 氏 〒651-1106 神戸市北区しあわせの村1-1 電話 078-743-8183 FAX078-743-8180 メール soumu@shiiawasenomura.org
17:00	閉会 懇話会

お申込にあたって
※参加の場を広く確保し、オンライン配信より届けたい。
※参加費は無料です。
※参加費の徴収が必要な場合があります。ご了承ください。
※参加費の徴収が必要な場合は、お申し込みの際に「参加費」の欄に記入し、その旨の目的に利用し、第三者に譲渡することはありません。

お申込方法
①QRコード ②FAX ③メール いずれかの方法で
※令和4年2月18日(金)までにお申し込みください。

①QRコードでのお申し込み
(ご来場・オンライン視聴 ともに申し込み可能です)
右のQRコードを読み込んで、必要事項をご記入ください

②FAXでのお申し込み
下記の表に必要事項をご記入の上、本紙を送信ください。

お名前(必須)	ご所属	E-mail(必須)	ご参加方法(必須)	必要な印刷(必須)
			[ご来場・オンライン]	
			[ご来場・オンライン]	
			[ご来場・オンライン]	

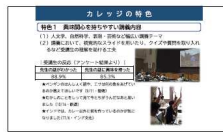
③メールでのお申し込み
下記の必要事項をご記入の上、下記アドレスまでメールを送信ください。
1.お名前(必須) 2.ご所属 3.ご参加方法(必須、ご来場かオンラインのどちらかを指定下さい)
※必要な印刷(必須)
※お申し込みメール送信先 soumu@shiiawasenomura.org
(公益財団法人連携推進協議会 経理管理課 UICフォーラム)

(2)フォーラムの内容

①KOBESHIIAWASE NO MURA YUNIBARUSARUKAREJJIの実践発表

・実践概要について動画を交え報告した。

(概要資料はウェブサイト http://www.kobe-wa.or.jp/universal_college.html に掲載)



- ・運営スタッフ、講師、受講生の立場からの気づきや感想の報告を行なった。



受講生…勉強が出来てうれしかった。部活動も楽しかった。マジックも職場で披露して盛り上がった。カレの先生のお店やダンスの先生の教室にも行ってみた。来年も参加したい。

受講生…休みの日に行く場所が出来てうれしい。歴史も興味あったのでおもしろかった。カレッジで共通の趣味を持つ友人が出来て、今でも連絡を取り合っている。

運営・交流行事…障がい者との関わりを経験したことがあるメンバーもそうでないメンバーもおり参加するまでは心配もあったが、実際に接すると、一生懸命交流を図ってくれて不安はなくなっていった。今後は、自主的な活動を増やしたり、文化部等部活動を拡充したり、今年度の受講生が先輩として関わっていく仕方を考え、サポートしたい。

担任・運営…担任という仕組みを持つことで、クラスとしてのつながりを促した。来年度以降受講生が自分を発信する場としてのクラスづくりをやってみたい。

部活動講師…参加者がお互いをよく知ることを大事にカリキュラムを組んだ。実技では2名の指導者を置き受講生に混ざって同じ目線で進行を心掛けた。自身の主宰するダンス教室にカレッジがきっかけで3名が来てくれている。カレッジでの経験が外に出て社会につながる小さな種・芽になっている。

②パネルディスカッション

- ・学識経験者、福祉行政、教育行政、学校教育、各分野よりの登壇者を得て、基調として青年期の学びの場が持つ意義、障がい者の青年期の学びの場の拡充の歩みを共有し、各分野の登壇者より KOBE しあわせの村ユニバーサルカレッジの実践について討議・評価を行い、将来に向けての提言として総括した。



渡部昭男氏…青年期は①学校から社会へ②子どもから大人へという2つの意味で移行期であり、様々な「揺れ動き」を経験するなかでかけがえのない自分を作る時期である。その時期の学びは人生を彩る。

上野昌稔氏…卒業後の追指導では「就労の定着や人間関係」に注意を向けがちだった。今回カレッジに関わって「人生を豊かに」という視点をもっと大切にすべきだと感じた。

崎濱昭彦氏…カレッジの実践の地域への展開を考えたとき、一般の塾や習い事でもカレッジでやったような運営の工夫や講義を知ってもらうことで、今まで行きにくかったところに行ってもらいやすくなるという流れやサポートする仕組みを作れないか。今後も各種情報支援と社会参加機会の拡充に努めていきたい。

村松好子氏…「ひようご障害者の生涯学習」連携コンソーシアムのアンケート調査を見ても、職場でも家庭でもない場へのニーズは高いのに実際に行動に移せていない現状がある。人生100年時代を見据えた豊かに生きるための学びの場としてのカレッジの取り組みが、博物館等社会教育施設での講座のモデルとなるのではないかと。

提言(渡部昭男氏)

- …ユニバーサルカレッジから博物館等地域の社会教育施設に出前授業を持ち掛け、障がい者の生涯学習講座運営に関するノウハウを伝えていくという展開も考えられる。
- …学校教育において個別の支援計画・個別の移行支援計画の中に、社会教育・生涯教育についての項目を追加し、学びの場について伝え卒業後にどういう風に伝えるのかを盛り込むことも提案したい。

総括・提言(ファシリテーター 植戸貴子氏)

- ・当事者の「学びたいニーズ」がとても高いことを改めて実感した。ユニバーサルカレッジは、こうしたニーズにこたえる学びの場であると同時に、職場でも家庭でもない第三の居場所として、新たな人と人の出会いの場になっている。
- ・今回の発表や講座の参観を通じ、これまで見えていなかった受講生の新たな一面・可能性に職場や事業所の人気が付くきっかけになった。
- ・運営に参画したスタッフにとっても交流の中で気づきを得る機会となったことがうかがえる。
- ・情報・機会・適切な支援があれば「より多様な人が・一緒に学ぶ」ことが可能

になる。カレッジの実践を活かし、障がい者が街に出て、地域の人にも障がいを理解し、教えあう・支えあう状態＝ソーシャルインクルージョンにつなげていきたい。

③質疑応答

★社会に学生を送り出す学校の立場から、卒業後はこんなことに取り組んでほしいと思うようなジャンルはあるか？(障がい者就労企業関係者)

→今の時代多様なジャンルがあると思うので特定の分野は定めにくい。人生を彩るような、魂が揺さぶられるような学びとは何かと、考えたり探したり、話し合う場があるといい。

★こうした学びの場を行政で取り組むとき、企業として支援出来ることは何か？(障がい者就労企業関係者)

→施設・設備だけではなく、専門的な知見を持つ人材の協力をいただければありがたい。例えば外出することへのハードルが高い方への支援として「電子居場所」を県でも取り組んでいるが、アニメーションや鉄道などそれぞれのルーム内でテーマを設ける場合ファシリテーター的な存在が必要になる。

(3)参加者（参加 80 人 うちオンライン 31 人）

参加者内訳	計		うち来場	うちオンライン
カレッジ受講生	4	5.0%	3	1
受講生のご家族	3	3.8%	2	1
行政関係者	6	7.5%	3	3
教育関係者	15	18.8%	5	10
企業関係者	2	2.5%	2	0
福祉事業所関係者	8	10.0%	5	3
障がい者関係団体関係者	5	6.3%	4	1
一般参加者	11	13.8%	5	6
運営事務局関係者	26	32.5%	20	6
(人)	80		49	31

(参加者アンケートより)

★学校以外の場での活動に興味をもてるように、そのきっかけを在学中から提供していくことの必要性を感じました。(教育関係者)

★本人たちが学べる機会があったことはとても感謝しています。それにも増して学校や行政、民間の企業の方たちが歩み寄り前向きに取り組んでくださっていることを知り、とてもうれしく感じました。(受講生家族)

★参加している社員に良い変化が見えてきたが、それはユニバーサルカレッジの影響があるのではないかと感じた(企業関係者)

(別紙「KOBE しあわせの村ユニバーサル実践発表フォーラム」参照)

(5) 広域的な研究成果普及・人材育成等を目的としたブロック別コンファレンスの実施
(3. において「ブロック別コンファレンス」の実施を選択した場合のみ、6. (5) ①、②について記載すること。)

①実施経過（具体的な内容は6.（5）②に記載すること。）

4月	
5月	
6月	
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	

②具体的な内容

（ブロック別コンファレンスの取組内容を具体的に記載すること。実施スケジュールや内容、参加者の属性（地方公共団体・関係団体・一般等）を明確にした上で、具体的に記載すること。（参加者実績については、下記表を参考に記載すること。）なお、取組の結果を踏まえて今後さらに検討すべき点や課題等についても触れること。）

--

（A）参加者の属性について

	合計（人）
属性別参加者数	
（内訳）	
行政関係者（教育委員会）	
行政関係者（首長部局）	
学校教育関係者（大学等関係者を除く）	
大学等関係者	
公民館等社会教育施設関係者	
社会福祉法人関係者	
NPO法人関係者	
企業関係者（商工会等含む）	
保護者団体関係者（親の会・手をつなぐ育成会等含む）	
その他一般参加者	
運営事務局関係者	

※把握している属性項目によって追加して記載すること。

(B) メディアインパクト（報道等での周知状況）

	件数
新聞	
ラジオ	
テレビ	

※該当がある場合、別途参考となる資料を添付のこと。

7. 本実践研究事業の実施により得られた成果・効果

(自立や社会参加・就労等に関する具体的なエビデンスに基づく成果・効果、本委託事業終了後の成果の活用方針・手法等)

(1) 事業の実施により直接的に得た成果／アウトプット目標※数値を用いる等して具体的に記載すること

- ①学校から社会への移行期の障がい者への学習機会の創出
 - 【当初目標】20名 → 【実績】30名(うち3名は特定の回のみスポット受講)
- ②学園生活を通じて受講生が獲得する力の維持・開発・伸長
 - (ア)知識や興味の広がり(知識 教養)
 - i)多彩なテーマによる講義プログラムの提供
 - 【計6回 9講座開講】
 - ii)カレッジ受講を通じて新しいことを学んだ受講者数
 - 【カレッジで新しいことが学べた…83.3%】
 - iii)異なる講義のテーマに対し、興味関心を持つ経験をした受講生
 - 【興味を持った…85.2%】
 - (イ)学ぶ意欲の向上(自立性 主体性)
 - i)主体的な科目選択の機会の創出
 - 【部活動…5種目の選択・講義…ダンス11人・写真16人】
 - ii)カレッジ運営への参画機会の創出
 - 【2名の受講生が実行委員会へ参画】
 - iii)学びの場への参加を今後も希望するか
 - 【今後も学びの場に参加したい…87.5%】
 - (ウ)様々な人との交流経験の積み重ね(コミュニケーション能力 社会性)
 - i)受講生同士の交流機会としての部活動の実施
 - 【5種目を計3回実施】
 - ii)異なる世代間との交流機会としての世代間交流授業の実施
 - 【計2回実施】
 - iii)グループや班による共同学習、体験機会の創出
 - 【講義：班ごとに分かれた化石レプリカ作り、調理実習】
 - 【部活動：各部活において交流を意識した運営】
 - 【交流行事：班別対抗ゲームや、巨大おりづるなど共同作業】
 - iv)カレッジで仲間や友人が出来た受講生数
 - 【仲間や友人が出来た…87.5%】
 - v)受講生家族のユニバーサルカレッジへの評価
 - 【カレッジのことがとても話題になった・話題になった計…84.2%】
 - 【カレッジの話題をする受講生の様子：とても楽しそう・楽しそう計…89.5%】
 - 【学びの場に参加することについて とても良い・良い計…89.5%】
 - vi)受講生所属先(職場・事業所)のユニバーサルカレッジへの評価
 - 【カレッジのことがとても話題になった・話題になった計…87.5%】
 - 【カレッジの話題をする受講生の様子：とても楽しそう・楽しそう計…100.0%】
 - 【学びの場に参加することについて とても良い・良い計…100.0%】

(2) 事業の実施により終了後（中長期的）に得た成果／アウトカム目標

※数値を用いる等して具体的に記載すること

教育関係者（学生を社会に送り出す側）、障がい者が働く企業や就労支援事業所（学生を社会で受け入れる側）双方に生涯学習の重要性が認知され、本事業のモデルを活かした同種の学習活動が、広がることを目標とする。

本年度は上記目標達成の第一段階である「生涯学習の重要性の認知」について主に取り組み、一定程度の達成を見た。

また上記の点のほか初年度の実践を通じて得られた成果として下記3点を挙げる。

- ①カレッジが学びのニーズにこたえる場だけではなく、職場でも家庭でもない第三の居場所・新たな人と人の出会いの場」としての性質を持っていること。
- ②受講生の新たな一面・可能性に職場や事業所の人気が付くきっかけになった。
- ③運営に参画したスタッフにとっても交流の中で気づきを得る機会となった。

上記3点をふまえ、情報・機会・適切な支援があれば「より多様な人が・一緒に学ぶ」ことが可能になる。カレッジの実践を活かし、障がい者が街に出て、地域の人も障がいを理解し、教えあう・支えあう状態＝ソーシャルインクルージョンにつなげていきたい。

※障がい者就労企業・事業所の反応（受講生所属先アンケート結果より）

③カレッジの話題をすときの受講生の様子		④学びの場へ受講生が参加することについてどう思うか	
とても楽しそう 楽しそう	16	とても良い 良い	16
あまり楽しそうではない 楽しそうではない	0	あまり良いと思わない 良いと思わない	0
無回答	0	無回答	0
計	16	計	16

とても楽しそう
楽しそう 100.0%

とても良い
良い 100.0%

- ・新しい知識、社会のいろいろなお話し、市長も来られたこと、イベントも多彩で、楽しそうでした。
- ・ご本人はとても楽しく通われている様子でした。部活動で友達ができたことをうれしそうにお話されていました。今後もこのような機会があれば事業所としてもうれしいです。

※家族の反応（受講生家族向けアンケートより）

④学びの場へ受講生が参加することについてどう思うか	
とても良い 良い	17
あまり良いと思わない 良いと思わない	0
無回答	2
計	19
とても良い 良い	89.5%

- ・学校を卒業すると全く居場所（デイに行っていたので）や余暇活動、友達との交流や運動する機会がいきになくなったので、このようなイベントは本当にありがたいです。
- ・内容的に難しいと思うこともあったようでした。それでも、新しい知識を得る場として、障がい者にも機会があることは、とても望ましいことと思っています。本人も楽しそうに行かせて頂きました。
- ・一人で参加させるのは心配でしたが、スタッフの方がたくさんいてサポートしてくださったので安心して任せることができました。鉄道の講義を一番楽しみにしていましたが他のことも講義を受けると楽しかったようです。

※フォーラムアンケート結果より

学校卒業後の学びの場について大切と思う 94.9%

・学びたいニーズがある。学ぶ機会と場をつなぐことが出来ていない現状がある。(行政関係者)

(3) 本委託事業実施により得られた成果をどのように活用するのか。またその計画について、具体的に記載すること。

委託事業期間を運営手法やプログラム内容についての試行期間と位置づけ、試行を経て獲得した運営モデルをベースに、委託事業終了後は神戸市の協力によりこうべ市民福祉振興協会の事業として、障がい者の生涯学習の場を発展させる予定である。

当事業で得られた成果を学校(学生を社会に送り出す側)、障がい者就労企業・事業所(学生を社会で受け入れる側)、当事者・家族、に対しフィードバック(共有)することで、障がい当事者が社会での活躍の可能性を広げることに資する学びの場のひろがりを目指す。

さらに今後はこのような取り組みが、障がい者と障がい者を支援するコミュニティにとどまらず、広く市民のための社会教育施設・一般企業等に広まることにより、全市的なソーシャルインクルージョンの実現の一助となることを目指す。

「K O B E しあわせの村ユニバーサルカレッジ」令和3年度事業自己評価

【評価基準について】

・指標の達成・未達成による評価（達成できた＝○ 達成できなかった＝×）

・指標の達成割合による評価（A B C 3段階評価）

アンケート調査の当該指標に係る回答において、80%以上＝A 60%以上80%未満＝B 60%未満＝C

目標	評価指標	評価(案)	評価の根拠及び関連事項	
1. 学校から社会への移行期の障害者への学習機会の創出	受講者数（計画時目標 20名）	○	・本年度実績 受講者数30名（うち3名スポット受講） ※カレッジに来るのは大変ではなかった…70.8%（まとめのアンケート・受講生 有効回答24人中17人）	
2. 学園生活を通じて受講生が獲得する力の維持・開発・伸長	(1)知識や興味の広がり (知識 教養)	①多彩なテーマによる講義プログラムの提供	○ ・年6回、計9講義の開催（別紙参照） ※60分講義は長かったか？：あつという間・短かった・そうでもない計…87.5%（まとめのアンケート・受講生 有効回答24人中21名）	
		②カレッジ受講を通じて新しいことを学んだ受講者数	A ・カレッジで新しいことが学べた…83.3%（まとめのアンケート・受講生 有効回答24人中20人） （複数回答：異文化9 化石10 動物15 阪急阪神16 川崎重工業11 インド文化14） ・講義内容が分かった…88.9%（各回講義アンケート第1～6回累計 有効回答217人中193人）	
		③異なる講義のテーマに対し、興味関心を持つ経験をした受講生数	A ・興味を持った…85.3%（各回講義アンケート第1～6回累計 有効回答217人中185人）	
	(2)学ぶ意欲の向上 (自立性 主体性)	①主体的な科目選択の機会の創出	○	・部活動…5種目の選択（スポーツ ダンス 卓球 ボクシングフィットネス テニス） ・講義…ダンス11人・写真16人
		②カレッジ運営への参画機会の創出	○	・実行委員会に2名の受講生が参加11/5・12/9・1/20 ・2/26実践発表フォーラムにも参加（予定）
		③学びの場への参加を今後も希望するか	A	・今後も学びの場に参加したい…87.5%（まとめのアンケート・受講生 有効回答24人中21人）
	(3)様々な人との交流経験の積み重ね（コミュニケーション能力 社会性）	①受講生同士の交流機会としての部活動の実施	○	・5種目について計3回実施 ※部活動は楽しかった…96.2%（部活動アンケート 有効回答26人中25人） ※部活動の仲間と仲良くなった…88.5%（部活動アンケート 有効回答26人中23人） ※部活動をずっと続けたい…73.1%（部活動アンケート 有効回答26人中19%） ※当初と比べ受講生同士の交流は深まった…100.0%（部活動指導者アンケート 有効回答7人中7人）
		②異なる世代間との交流機会としての世代間交流授業の実施	○	・計2回実施 ※世代間交流は楽しめた …①マジック95.7%（7/24世代間交流アンケート 有効回答22人中21人） …②折紙等91.7%（12/18世代間交流アンケート 有効回答23人中22人）
		③グループや班による共同学習、体験機会の創出	○	講義：班ごとに分かれた化石レプリカ作り、調理実習 部活動：各部活において交流を意識した運営 交流行事：班別対抗ゲームや、巨大おりづるなど共同作業
		④カレッジで仲間や友人が出来た受講生数	A	・仲間や友人が出来た…87.5%（まとめのアンケート・受講生 有効回答24人中21人） （どんな時に話す？ 複数回答：講義7 休憩時間13 部活動15 世代間交流3 登下校6 その他2）
⑤受講生家族のユニバーサルカレッジへの評価		A	・とても話題になった・話題になった計…84.2%（まとめのアンケート・家族 有効回答19人中16人） （話題になったのは？ 複数回答：講義内容12 部活動10 交流イベント6 カレッジで会った人8） ・カレッジの話題をするときの受講生の様子：とても楽しそう・楽しそう計…89.5%（まとめのアンケート・家族 有効回答19人中17人） ※学びの場に参加することについて とても良い・良い計…89.5%（まとめのアンケート・家族 有効回答19人中17人）	
⑥受講生所属先(職場・事業所)のユニバーサルカレッジへの評価		A	・とても話題になった・話題になった計…87.5%（まとめのアンケート・所属先 有効回答16人中14人） （話題になったのは？ 複数回答：講義内容4 部活動6 交流イベント3 カレッジで会った人6） ・カレッジの話題をするときの受講生の様子：とても楽しそう・楽しそう計…100.0%（まとめのアンケート・所属先 有効回答16人中16人） ※学びの場に参加することについて とても良い・良い計…100.0%（まとめのアンケート・所属先 有効回答16人中16人）	
運営上の工夫	支援するスタッフの必要性の評価		※スタッフがいてくれてよかった時は？（まとめのアンケート・受講生） →複数回答：登下校7 講義中16 部活動14 世代間交流11 特になし3 ※支援したシーン（まとめのアンケート 運営参画事業者1グループわ ライフ・シンセリテイ） →複数回答：登下校7 講義中6 部活動5 世代間交流7 その他5 ●受講生が主体的にカレッジのカリキュラム(特に講義)に取り組む上での入口支援としてのスタッフの必要性が認められる。	

種類	日付	講義タイトル	講義内容が分かった				講義内容に興味を持った			
			分かった	あまりわからなかった	無回答	分かった	興味を持った	あまり興味を持たなかった	無回答	興味を持った
講義	7月24日	文化人類学	22	1	1	91.7%	22	1	1	91.7%
	9月11日	化石のレプリカを作ってみよう	22	2	0	91.7%	22	1	1	91.7%
	9月11日	王子動物園再発見	22	1	1	91.7%	20	3	1	83.3%
	10月16日	日本の鉄道 阪急阪神電車の歴史	24	0	1	96.0%	20	4	1	80.0%
	10月16日	川崎重工業株式会社の創る未来	22	2	1	88.0%	22	2	1	88.0%
	11月6日	調理を通じて学ぶインド文化	24	1	1	92.3%	23	2	1	88.5%
	12月18日	写真の魅力	20	2	2	83.3%	20	2	2	83.3%
	12月18日	ダンスを楽しもう	20	1	3	83.3%	18	2	4	75.0%
	2月12日	神戸の歴史と文化	17	4	0	81.0%	18	2	1	85.7%
				193	÷	217	88.9%	185	÷	217

種類	日付	設問	楽しい仲間になった続けたい	無回答	楽しい仲間になった続けたい
部活動	3回を	部活動は楽しかった	25	1	96.2%
	通して	部活動の仲間と仲良くなった	23	1	88.5%
	11/6記入	部活動をずっと続けたい	19	3	73.1%

種類	日付	設問	楽しめた	無回答	楽しめた
世代間交流行事	7月24日	交流行事は楽しめたか	22	0	95.7%
	12月18日	交流行事は楽しめたか	22	2	91.7%

部活動種目	①部活動は楽しかったですか	部活動についての感想(自由記述)	②部活動の仲間とは仲良くなりましたか	カレッジの仲間や友達についての感想(自由記述)	③部活動はずっと続けたいですか	やってみたい種目があれば書いてください(自由記述)
卓球	楽しめた	卓球ができてよかったです。	仲良くなりました	仲良くなりました	続けてみたい	スマッシュ
ダンス	楽しめた	私は、ダンスが上手になりたい	仲良くなりました	楽しかった。ちょっとだけ早かったです。	無回答	上手にダンスやりたい、教えてください、よろしくをお願いします。
スポーツ	楽しめた	スポーツができました。	仲良くなりました	いっしょに運動をしました。	続けたいと思わない	たとえば、きたるこをしたり、楽しむ、することを 思います。
スポーツ	楽しめた	ドッジボールやバドミントンなど全部楽しかったです。あまり体動かしていなかったから楽しかった	あまり仲良くなりなかつた	少し話せた子と話せていない子がいて残念だった	続けてみたい	
ダンス	楽しめた	また、ダンスを身に行きたいです。	仲良くなりました	新しい自分に出会えました。	続けてみたい	
テニス	楽しめた	やさしく教えていただきました。楽しかったです。	仲良くなりました	すごく仲良くてできて良かったです。	続けたい	フリスビー、テニス、卓球、もっとうたい
卓球	無回答	たのしかった	無回答	●●くん	無回答	たきゅう、ずと ● けたいです
卓球	楽しめた	ラケットの使い方を教えてもらって上手に打てるようになったので、よかったです。	仲良くなりました	楽しいし、又友達を作りたいです。ありがとうございます。	続けたい	
テニス	楽しめた	ぜひやらせて下さい。	仲良くなりました	カレッジの仲間や友達の同じダンス部になれてよかったです	続けたい	試合とストロークとバックハンドをお願いします。首振りコーチを習みたいです。
ダンス	楽しめた	部活動ダンスのふりつけができてよかったです	仲良くなりました	カレッジの仲間や友達と仲良くできて良かったです	続けてみたい	テニスの部活がやりたいです。カラオケもやりたいです
ダンス	楽しめた	みんな楽しく踊って、新しい自分にも出会えたいと思います。	仲良くなりました	みんなとても仲良く面白くダンスばかりでした。	続けたいと思わない	
卓球		欠席				
卓球	楽しめた	スタッフと卓球、練習して楽しいです。	仲良くなりました	スタッフと卓球、練習して楽しいです。	続けてみたい	卓球、1ゲームの試合
卓球	楽しめた	ドライブ	仲良くなりました	他の人のダンスを見てすごいなと羨望しました。	続けてみたい	しあい
ダンス	楽しめた	コンテンプラリーダンスを知って、楽しく出来て良かったです。	仲良くなりました	かなり友達が出来ました。	続けてみたい	またしたいです。
ボクシング	楽しめた	かなりおもしろかったです。	仲良くなりました	チームで楽しくテニスができました。	続けてみたい	テニスの
テニス	楽しめた	サーブなどたくさんまうまうできました。	仲良くなりました	私の仲の時の先輩が7年ぶりに会いに来てうれしかったのと、同じ高校の時の友達にも会えて良かったです。	続けてみたい	アパレルのようなダンスもやりたいなと思います。かんたんなんふりつけでいいので、やってみてください。
ダンス	楽しめた	とても面白かったですし、楽しかったです。私のダンスは主に美しく、しなやかに、力をテーマにしなから、自分のオリジナルでやってみようと思います。	仲良くなりました	カレッジで練習をしました。	続けたいと思わない	ダンスがしたいです。
テニス	楽しめた	テニスが楽しかったです。	仲良くなりました	なかよくしてくれたのしかった	無回答	つづけてください
スポーツ	楽しめた	よかったです	仲良くなりました	したし、友 ● できた	続けてみたい	別 しゅ ● けに ちがう
卓球	楽しめた	7/24日に卓球してよかったです	仲良くなりました	部活の仲間や色んな仲間と仲良くできて良かったです。	続けてみたい	テニス、野球、サッカー、卓球、フットニス、剣道、ボクシングなど、ダンス、茶道、バレーボール、バスケ、バドミントン、バドミントン、等々です。
スポーツ	楽しめた	人数でも楽しい部活動でした	仲良くなりました	スポーツを通じてエコーKOBELとさらに仲良くなりたいです。	続けてみたい	スポーツ
ダンス	楽しめた	色々なダンスができて、よかったです。	仲良くなりました	どなり同士で、会話することもあった。	続けたいと思わない	スポーツや運動系にもチャレンジしていきたいです。
ボクシング	楽しめた	普段運動しないですが、それでも、楽しく大きく体を動かせて、運動不足を解消したので、満足です。	仲良くなりました	わきあいあい、コミュニケーションがとれやすかったです。	続けたい	ボクシングフットニスをもう一度したいと思いました。
ダンス	楽しめた	権教人で踊るものが楽しかったです!!	仲良くなりました		続けてみたい	
スポーツ	楽しめた	ノルディックススポーツが一歩楽しかったです。	あまり仲良くなりなかつた		続けてみたい	いろいろなスポーツをやってみてください。

①部活動は楽しかったですか		②部活動の仲間とは仲良くなりましたか		③部活動はずっと続けたいですか	
面白かった	25	仲良くなりました	23	続けてみたい	19
あまり面白くなかった	0	あまり仲良くなりなかつた	2	続けたいと思わない	4
無回答	1	無回答	1	他の種目なら続けたい	0
				無回答	3

①カレッジのことが家庭で話題になったか		②どんなことが話題になったか				③カレッジの話題をするときの受講生の様子		④学びの場へ受講生が参加することについてどう思うか	
		講義内容	部活動	世代間交流イベント	カレッジであった人				
とてもなった	16	12	10	6	8	とても楽しそう 楽しそう	17	とても良い 良い	17
あまりならなかった	1	---	---	---	---	あまり楽しそうではない 楽しそうではない	0	あまり良いと思わない 良いと思わない	0
無回答	2	---	---	---	---	無回答	2	無回答	2
計	19	12	10	6	8	計	19	計	19

とてもなった
 なった 84.2%

とても楽しそう
 楽しそう 89.5%

とても良い
 良い 89.5%

自由記述

年齢	性別	どんなことが話題になったか(自由記述)
26	男	←仲間、先生
28	男	次の日程を何度も聞いてきて、楽しみにしていました。
26	男	←仲間や友達のこと
30	男	カレー作りのことが話題になっていた
21	男	昼食(お弁当)
22	男	昼食のこと
26	男	その日の昼食の内容
---	女	お弁当

年齢	性別	設問④の回答選択理由 または 意見、感想(自由記述)
19	女	ボランティアの方々が、いろいろ手伝っていただけていたので、一人で参加させても大丈夫だなと感じました。子供と一緒に母も勉強させてもらいました。次回も参加させたいと思います。
24	男	スタッフの皆さま、いつもお世話になりありがとうございます。本人は話すタイプではないのですが楽しそうでした。つきそいのヘルパーさんからも表示や案内なども細やかな配慮がある講座だと感じています。次の機会があればぜひご案内下さい。
26	男	職場と家以外の人と知り合えたのが楽しかったようです。いろんな人と話したことを帰宅して教えてくれました。一度見学させてもらったのですが鉄道が好きなので内容もよくわかり、手をあげたり積極的に参加している姿を見て嬉しかったですし自分もいろいろ勉強しようと思いました。休日のたいへんよい気分転換になったと思います。昼食も楽しみだったようです。運営その他ありがとうございました。
28	男	余暇活動を考えて下さってとても感謝しています。内容も今までに経験にないものが多く、学習や運動もさせて頂き、成長につながったと思います。ありがとうございました。又、参加したいですし、たくさんの人に参加してもらいたいです。
26	男	いろいろなことが学べたり、体験出来て良かったです。交流イベントのグループ「わ」の方々とも交流も楽しめていました。困ったときには優しく声をかけて頂いて安心して参加で来たと思います。大変お世話になりました。来年も宜しくお願い致します。
20	男	一人で参加させるのは心配でしたが、スタッフの方がたくさんいてサポートして下さったので安心して任せることが出来ました。鉄道の講義が一番楽しみにしていましたが他のことも講義を受けると楽しかったようです。
20	男	<氏名>と<氏名>兄弟は多くの先生方が熱心に指導をして頂き、大変感謝しております。そのおかげで兄弟二人は立派な週末を楽しく過ごしました。本当に良かったです。
20	女	カレッジに参加させて頂きありがとうございました。毎回とても楽しみにしており、帰ってくると講義やお友達の話をしてくれます。また、このようなイベントがあれば参加させて頂きたいです。
30	男	内容的に難しいと思うこともあったようでした。それでも、新しい知識を得る場として、障がい者にも機会があることは、とても望ましいことと思っています。本人も楽しそうに行かせて頂いてました。
21	男	最初は、少し遠いのもっと家の近くでこのような場があったら・・・と思いましたが、月一回程度ならそんなに苦にならないし、しあわせの村だからこぞできる活動も多いと思うので、結果的には講義内容、活動、スタッフ全てとても充実した学びの場に参加することができて心から感謝しています。ありがとうございました。今後も、このような場に継続して参加する機会があれば幸いです。講義の中でいくつか、我が子にとっては分かりにくい表現(例えば配布物を'レジュメ'と言ったり)があったので、できるだけ誰もが分かりやすい表現を使ってほしいなと思いました。

22	男	<p>日々の生活がジェットコースターのような起伏の激しさ、それにも増してコロナ禍でいろいろな制限の多い中過ごしていたところ、事業所より紹介していただき、ユニバーサルカレッジに参加させていただきました。</p> <p>スポーツや鉄道好きですが、他の分野のプログラムについていけるか不安でしたが、どの講義も意欲をもって参加できて良かったです。毎回、「今日も楽しかったよ」といろんな話をしてくれました。私自身は、12月の回のみ現地で見学させて頂き、あとはオンライン動画を少し拝見しました。</p> <p>朝早くからの会場設備、実行委員の先生方、事務局の方、ボランティアグループ「わ」の方たちの支援などいたりつくせりの一日で、こんなにしてもらっていいものかと感謝と申し訳なさでいっぱいです。</p> <p>個人的には来年度も参加できたらと思いますが、まだまだ参加したい人、この情報を知らない人もいると思うので、うちの子が救われたようにたくさんの人にこんな機会が与えられたらいいと思います。</p> <p>ここで学んだことをきっかけに新しい分野への興味が広がりました。コンテンポラリーダンスとは無縁でしたがとても興味を持ち、カレッジ以外でも参加してみたいと、一歩、足を踏み入れたところです。</p> <p>しあわせの村はいろいろな施設が整っていて自然にも触れられ最適な場所だと認識しました。</p> <p>しあわせの村でなければ部活動の幅もこんなに広くできなかったと思います。ボランティアグループ「わ」の活動も知り、親の私にも学びの機会でした。ありがとうございました。</p> <p>追伸、いろいろ失物が多く、電話等での問い合わせなどお世話おかけしました。温かく対応してくださりありがとうございました。</p>
26	男	<p>息子をユニバーサルカレッジに参加させるにあたり、家族から離れて同じように障害を持つ仲間といういろいろな体験することで楽しみながら社会性をはぐくむことができると期待しておりました。日々健常者の中で仕事をし、知らずのうちにも溜まる気疲れをいやす場が必要だとの思いもありました。息子は1人で市バスに乗るのも初めてで家族はハラハラでしたが本人は毎回の講義を心待ちにし当日はいつも張り切って出かけていきます。余程楽しいのでしょうか、この度は関係者の方々のご尽力により、家族だけでは作れない幸せな学びの場を頂けたと感謝しております。本当にありがとうございました。ユニバーサルカレッジがこれからも障がい者の余暇の充実に繋がる場になりますよう願います。</p>
26	男	<p>神戸市民ではないのですが、受講生として頂き有難うございました。楽しく講義に参加させて頂き、復習に民族博物館へ伺うこともできました。<氏名>はエコーの先輩後輩、神大KUPIの同輩とも再会できました。楽しく学ぶことが出来たと思います。</p>
---	女	<p>学校を卒業すると全く居場所(デイに行っていたので)や余暇活動、友達との交流や運動する機会がいっさになくなったので、このようなイベントは本当にありがたいです。急な予定で欠席してしまい申し訳ありません。1回からでも参加できるのが、こだわりのある子にとって参加しやすかったです。ありがとうございました。</p>

回答所属先類型	特例子会社	移行支援	継続支援A	継続支援B
	4	1	1	10

①カレッジのことが職場で話題になったか		②どんなことが話題になったか				③カレッジの話題ををするときの受講生の様子		④学びの場へ受講生が参加することについてどう思うか	
		講義内容	部活動	世代間交流イベント	カレッジであった人				
とてもなった	14	4	6	3	6	とても楽しそう 楽しそう	16	とても良い 良い	16
あまりならなかった	2	---	---	---	---	あまり楽しそうではない 楽しそうではない	0	あまり良いと思わない 良いと思わない	0
無回答	0	---	---	---	---	無回答	0	無回答	0
計	16	4	6	3	6	計	16	計	16

とてもなった
 なった 87.5%

とても楽しそう
 楽しそう 100.0%

とても良い
 良い 100.0%

自由記述

所属先類型	年齢	性別	どんなことが話題になったか(自由記述)
特例子会社	26	女	カレー作り
特例子会社	20	男	←仲間、友達
就労移行支援	19	男	←仲間、友達
就労継続支援B型	30	女	活動全般を利用者が話していました。家族の方が今回参加することを喜んでいました。
就労継続支援B型	21	男	ご本人が積極的に話題にされることはあまりなかったですが、それでも「ユニバーサルカレッジ行ってきた」と報告を毎回してくれました。
就労継続支援B型	19	男	昼食の内容、おいしかった、豪華

所属先類型	年齢	性別	設問④の回答選択理由 または 意見、感想(自由記述)
就労継続支援B型	25	男	お世話になりました。ご本人はとても楽しく通われている様子でした。部活動で友達ができたとをうれしそうにお話されていました。今後もこのような機会があれば事業所としてうれしいです。
特例子会社	26	女	毎年開講するようにして下さい。
就労継続支援B型	28	男	とても良い余暇活動、経験になるので、ぜひとも軽度さんに告知して参加して頂くようにしていきます。
特例子会社	26	男	コミュニケーションが苦手なカレッジの様子は話してくれませんでした。動画を見て、楽しそうにしていたので、少しは参加して良かったのかと思いました。
特例子会社	20	男	障がい者の学びの場としての御協会の取り組みについて意義のある活動として賛同いたします。ソフトボール部活動があれば、指導者資格を有していますので協力もできます。
特例子会社	20	男	毎回カレッジの出来事や様子を報告してくれて、とても楽しい様子が伝わってきました。来年度も参加したいとのことです。今後もこのようなカレッジがあれば良いと思います。
就労移行支援	19	男	ありがとうございました。
就労継続支援B型	19	男	お世話になりました。ダンスやテニス楽しかったとうれしそうに報告して下さいました。講義の内容は少し難しかったようですが、毎回楽しんでおられました。今後もこのような機会があれば事業所としてうれしいです。
就労継続支援B型	21	男	今後もこのような取り組みをぜひ続けて頂きたいです。
就労継続支援B型	22	男	ご本人にとって、コロナ禍による様々な制限がしんどい状態が続いていました。今回の受講で、とても良いリフレッシュ・充実感に繋がったと思います。ありがとうございました。
就労継続支援B型	19	男	新しい知識、社会のいろいろなお話し、市長も来られたこと、イベントも多彩で、楽しそうでした。主催の方もしっかりとされていました。
就労継続支援B型	---	女	今後も継続していただきたく思います。

回答者類型	1 受講生と会話する ことはあったか		2 支援内容					3-2 当初と比べ受講生同士の 交流は深まったか	5-2 研修生にとって 有意義な経験であった か	6 当初と比べ受講講 生に対する認識や 接し方に変化は あったか	
	登下校 案内	講義中	部活動	世代間 交流イベ ント	その他						
運営_グループわ(回答数13)	あった	10	6	5	4	6	4	---	あった	8	
運営_ライフ・シンセリティ(回答数1)	あった	1	1	1	1	1	1	---	有意義だったと思う	あった	1
世代間交流行事(回答数13)	あった	11	---	---	---	---	---	---	---	---	---
部活動指導者(回答数7)	あった	7	---	---	---	---	---	深まりを感じた	7	あった	4
		計	7	6	5	7	5	100.0%			

回答者類型	1 受講生との会話で、どんなことが話題になったか(自由記述)
様式1_グループわ_運営	クラブ活動(テニス) ①部活動の話、卓球が得意だとか ②世間話 企業が楽しかったよ、と不自由な言葉で一生懸命話しかけてくる人。言葉は出ないが、卓球がうまいことをほめてから、ご飯をたくさん食べたア ピールや目での合図、告白させるかも、という話。 三宮と一緒にお茶する話、最近太ってきたから大変だ、とか、仕事の内容など、いろいろ。仕事内容にはいまいち乗ってこない人がいたので、止 めた。
様式1_グループわ_運営	濃い話ではないが、部活動、モノ作り(調理含む)の時に、「スゴイネ!」「上手!」とか声を掛けた。
様式1_グループわ_運営	講座の内容や、受講生の興味に沿った話題で、声を掛けられたり、かけたりしました。休憩時には、仕事に行っていることなど、話す人もありまし た。
様式1_グループわ_運営	紙飛行機を作成し飛行機を飛ばした時の状態を色々話した。
様式1_グループわ_運営	どこから来られたか、どんなお仕事をしているのか
様式2_グループわ_交流行事	私の帽子に興味があったようで「どこで買ったの?」「かわいいね」など何度も言っていた。
様式2_グループわ_交流行事	各授業が終わるたび感想を聞いてみた。頑張っていた生徒には「良かったよ」と声かけをした
様式2_グループわ_交流行事	マジックレクチャーの助言
様式4_部活動指導者	授業・部活の内容について
様式4_部活動指導者	格闘技のことやダイエットのこと
様式4_部活動指導者	卓球技術に関する質疑や感想
様式4_部活動指導者	体調や教室内容
様式4_部活動指導者	スポーツ(卓球)に関する話が多かったです。「いつからスポーツを始めたか?」や「オリンピックの卓球見ました?」という話をしました。

回答者類型	2 支援内容(自由記述)
様式1_グループわ 運営	①バス停の案内 ②指示がわからないところをアドバイス ③引率の時、先頭に立つ人を決めた ④わからないところや楽しみ方を教えた
様式1_グループわ 運営	写真、twitterの発信
様式1_グループわ 運営	そばにいて、困っていないか見ていましたが、あまり支援は必要ありませんでした。トイレの声かけ、移動についての指示くらいです。 登校時間バス停担当だったのでその案内。受付では証明写真の補助。 講義中は学生の発表時のマイク移動担当。部活動では、スポーツ担当のための場所移動など。 交流イベントでは、マジックやオセロゲームなどの声かけ、おりがみ補助等
様式1_グループわ 運営	紙ひこう機づくりを手伝って一緒に飛ばしました。水分補給を促した。
様式1_グループわ 運営	写真の撮り方のアドバイスや競技補助
様式3_ライフ・シンセリテイ	1バス停からカレッジへの道案内 2調理時の感染対策と調理補助 3ダンスの会場準備と着替え補助、ボクシングフィットネスの参加(研修生が参加)、部活動終了の確認 4手品、折り紙、ゲームへの参加(研修生が参加) 5受付、講義室への案内、本部携帯にて出席の確認、昼食場所の準備・片付け、適宜質問への対応、見守り
回答者類型	3-1 受講生同士の交流を促すため留意したこと(自由記述)
様式1_グループわ 運営	何もなかった。受講生同士の動きにまかせ、みまもった。 グループに一緒にいるように、できるだけ自然に声をかけた場面はありました。無関心なように見えて、それでも周りを意識している人が殆どだと思います。
様式1_グループわ 運営	普通に接する ほとんどの生徒は自然になじんでいたので特に働きかけることは無かった 積極的に友達作りをしていてほええましく思った
様式1_グループわ 運営	万偏なくほめること
様式2_グループわ 交流行事	特別なことはなく、普通の男の子としてみています。6人共に明るくて優しい子供達です。ゲームもすぐに理解出来、積極的でした。
様式2_グループわ 交流行事	孫と話す時と同じように普通に
様式2_グループわ 交流行事	・決まった人ばかりがせずに、皆で協力するようにする。・発言を大事に聞く。
様式2_グループわ 交流行事	オセロゲームでは「さあ、みんなで応援しよう」と呼びかけた。折り紙の時は見ているだけの人がいないように声掛けを心がけた。
様式2_グループわ 交流行事	覚えたマジックのパフォーマンスを仲間内で披露してもらった。
様式4_部活動指導者	二人組のワークや、円座でのワークなど。顔が見える関係を作った。
様式4_部活動指導者	ラケットでのハイタッチなど、何か頑張った後は、必ずしていました。すると、自然に受講生同士が行うようになりました。
様式4_部活動指導者	2グループに分け、チーム戦での球当てゲームの練習をしました。応援をし、仲間を励ました。応援が盛りまりました。
回答者類型	3-2 具体的に部活動中などのような時に「受講生同士の交流が深まった」と思ったか(自由記述)
様式4_部活動指導者	授業や部活の際、お互い丁寧に接していたとき
様式4_部活動指導者	3-1で回答したことのように、1つの目標を達成した時に、皆で喜んでいたことがそう感じました。
様式4_部活動指導者	休憩中、他の受講生が練習していると近くに行き見ていた時や、的当てで同じチームが当てると声掛けが出来ていた時 チームの中で、なりたい通りにボールを打てた受講生の周りで、気持ちが高ぶるハイタッチをしそうになるが、コロナの事を思い出してがまんするやりとりをみた時
様式4_部活動指導者	

回答者類型	4-1(参画にあたり)当初不安に感じていたことはあったか(自由記述)
様式1_グループわ_運営	体調、精神的不安定時の対応
様式1_グループわ_運営	特異な行動があるのではと構えていた
様式1_グループわ_運営	多分受講生のみなさんは、学びたがっているかと思っただけだったので、不安はありませんでした。学ぼうとする皆さんの姿を見ることが、楽しみでした。
様式1_グループわ_運営	当初から不安はありませんでした。
様式1_グループわ_運営	特にありません
様式1_グループわ_運営	会話がうまくできるか
様式2_グループわ_交流行事	シルバークレッジの地域交流において現在、地元の小学校で8年間、中学校で2年間、特別支援学級のサポートを行っているのですが、特に不安は感じませんでした また前回7月に実施した「マジッククラブ」でも参加したので、知っている人もいてすぐに和気あいあいとなりました
様式2_グループわ_交流行事	不安はなかつたです。同じ目線で遊びましたので。
様式2_グループわ_交流行事	意思の疎通がどの程度できるか
様式2_グループわ_交流行事	▶企画にあたって悩んだこと ①子ども向けの「あそび」が成人の障がい者に通用するのか、のってくれるのか、不安だった。 ②ひとつの目標を設定し、皆で協力して、達成するというコンセプトは当初から考えていたが、仲間と「競い合っ」というやり方が(遊びの)不可欠な要素であるとしても)、障がい者の皆さんにとって適切なのか、最後まで悩んだ。
様式2_グループわ_交流行事	特になかった
様式3_ライフ・シンセリテイ	・2名の受講生の一斉講義の補助 ・コロナ禍の対面講義の実施 ・個人の障害特性等の情報が少ない中での開催にあたって、適切な指導ができるかどうか ・教室、部活動会場、昼食会場などの使用ルールや広い敷地内での移動など活動がスムーズに進められるか
様式4_部活動指導者	特になし
様式4_部活動指導者	・ケガのないようにすること ・受講生の方がネガティブになってしまわないうか
様式4_部活動指導者	レベルの差がありすぎた場合の内容
様式4_部活動指導者	受講生のスポーツの技術に差がありすぎるとみんなが楽しめるものができるかどうか不安でした。
回答者類型	5-1 参画を通じて得た経験や気づき(自由記述)
様式1_グループわ_運営	回数を重ねることが大切だと思います。(1度でなく継続が必要です。)
様式1_グループわ_運営	・参加している受講生がしっかりと講義を受け、質問も活発に行うことに感心。 ・好奇心の旺盛な子が多くこういつなかりを続けてあげたいと感じた。
様式1_グループわ_運営	世代間交流はとて有意義だと思う。
様式1_グループわ_運営	受講生の自立を促すサポートのあり方、やり方が対応する人により異なるのである程度の研修も必要かなと思いました。
様式2_グループわ_交流行事	特別支援学校のOBという先入観が自分の中で邪魔をした。一般の若者とほとんど変わらない。理解出来ないのは自分の説明の仕方が悪い。 ・普段接する機会が少ない世代の方との交流、コミュニケーションの機会が持てたことで知見が広がった ・ユニバーサルカレッジをもっと知ってもらい、希望される方が一人でも多く参加できることを願っている
様式3_ライフ・シンセリテイ	
様式4_部活動指導者	今回の事業に始めて参画しましたが、大変勉強になりました。受講生の方と一緒に盛り上げることができたことが大きな経験になりました。
様式4_部活動指導者	ボクシングは経験がない方も多いと思われの中で、楽しんでいただけたことに喜びを感じた。レベルの差があっても楽しめるということ。
様式4_部活動指導者	受講生全体の卓球のレベルが高く、幅広い練習をすることが出来たので、色んな練習メニューを知ることができました。

<p>回答者類型</p>	<p>5-2B型事業所の利用者(研修生)の参画について(有意義だったと思われた理由など)自由記述</p>
<p>様式3_ライフ・シンセリテイ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・受付、会場準備、昼食の準備、部活動の補助など幅広い仕事内容を1日かけてさせて頂けていたこと ・部活動や世代間交流に参加させて頂けたことで同年代の受講生もですが、グループわのみなさん、わらいとどけ隊のみなさんと世代を超えて交流させていただけましたこと ・大人数でチーム位になって連携してお仕事をさせて頂いたという機会がこれまでほとんどなかったことで、その中の一人として働けたこと ・こうべ市民福祉振興協会のみなさん、グループわのみなさんが、仕事をサポートしてくださる中でお仕事が出来たこと
<p>回答者類型</p>	<p>6当初と比べ受講生に対する認識や接し方にあつた変化等(自由記述)</p>
<p>様式1_グループわ_運営</p>	<p>じつと見守る。本人が自己で解決するまで注意深く見守る。</p>
<p>様式1_グループわ_運営</p>	<p>受講生の皆さんは、想像していた以上にアクティブでした。言葉にすることも少なかつたかもしれませんが、学が嬉しさ、楽しさを体中で表現していて、そんな姿を見ることができて、とても力を貰いました。</p>
<p>様式1_グループわ_運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加の皆さんが、大変熱心なことを知ったこと。 ・見た目は、障がいがあるように思えない方も、運動などに関して、ハンディがあることを知り、生きにくさがあるだろうと再認識した。
<p>様式1_グループわ_運営</p>	<p>本人たちを知ることに変化がありました。お互いに話し合う場が必要</p>
<p>様式1_グループわ_運営</p>	<p>普通に接しているのが特別認識していない。</p>
<p>様式1_グループわ_運営</p>	<p>身近に感じた</p>
<p>様式1_グループわ_運営</p>	<p>普通の子以上に感受性が強いことを認識した。</p>
<p>様式3_ライフ・シンセリテイ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・回を重ねるごとに個人らしさが分かり、より個人を知りたいと思うようになっていったことで次話しかける回数が増えました
<p>様式4_部活動指導者</p>	<p>接し方の変化等ではないのですが、受講生の積極性と、学がことへの好奇心が想定をこえていました。</p>
<p>様式4_部活動指導者</p>	<p>普段行っているレッスンと同じく「楽しくテニス」と思ってレッスンをすることができました。</p>
<p>様式4_部活動指導者</p>	<p>内容は難しいと考えていたが、難なくクリアできていたのが驚いた。</p>
<p>様式4_部活動指導者</p>	<p>運動のいつかんで卓球を選んでくれたのかなと思っていました。いざ会ってみるとマイラケットを持っていたり、とても卓球のことが好きで、上手くなろうと努力していておどろきました。</p>
<p>回答者類型</p>	<p>7来年度の運営への改善点</p>
<p>様式1_グループわ_運営</p>	<p>自立の為のプログラム(たとえば料理、ストレッチ(精神を安定させる) 心理学を取り入れたらどうか(精神心理学)父兄も聴講できるものか望ましい)</p>

<p>様式1_グループわ_運営</p>	<p>①難しいが自治活動を入れるべきではないかと思っ。学生の希望を聞きながら進めてい行きたいと思う。クラスの運営委員を決めるべきだと思っ。わのメンバーは専門家でもないし、接する機会も少ない。折り紙教室と決められていたが、細かい作業は難しそであるという気がしたが、この辺りは学生の意見を取り入れたかった。相談したかった。実行委員に立候補した学生は、実行委員会に参加したことをとても喜んでたこと。それをユニカレの自分たちのクラスの運営にもいかせたらよかったのではないかと。</p> <p>②最初に学生たちの自己紹介等が必要だと思っ。わらいとどけ隊のグループ活動のようなことは実は初めにアイスブレイキングとして取り入れるべきだと思っ。そうすればもう少し早くに友人ができたのではないかと。</p> <p>③全体に忙しかった。部活動で、やっと人間関係ができたのではないかと。余裕が欲しかった。</p> <p>④学生の中には、マリンバ奏者がいた。ほかにも何か特技があるかもしれない。どこかで披露してもらったらいいのではないかと。</p> <p>⑤家族やつきそいの方々がずっといたが、お手伝いをお願いしたらどうかと思っ。することがあればいいかと。</p> <p>⑥支聴講生という形で健常者(KSC学生・ボランティアの大学生・グループわ・◎の人も)を募集し、ともに学び、教室の整理や部活動の引率その他のボランティアを担う。鶴の目鷹の目で支援しようとする人ばかりでは息苦しくないか。ともに学び、少数の健常者の同伴者があるといいのではないかと。健常者が障がいのある人と同じで楽しめるものを学びに行く。授業自体は健常者が受けても面白かった。ユニバーサルというのはそういうことではないか。</p>
<p>様式1_グループわ_運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者がカレッジの場で、多様な特技・探求する方面を見つけ出すきっかけづくりを提供できるプログラムを考えられたらと思う。 ・今年度の受講生が引継ぎ後輩の世話ができれば良い。
<p>様式1_グループわ_運営</p>	<p>今年度の内容は、どれも興味深くよかったです。今後も受講生の取り組みやすい内容を吟味して、続けてほしいと願っています。</p>
<p>様式1_グループわ_運営</p>	<p>受ける授業も大切ですが、参加型を増やしていく方がいいと思います。調理や写真等はよかったです。始めにグループ分け、自己紹介、コミュニケーションセッショングループのメンバーを変える。全員が関われるようにする。</p>
<p>様式1_グループわ_運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世代交流の時参加されているご両親も一緒に参加出来る様な作品作りがあれば良いと思います。 ・家庭にかえて親子でお話出来るので...
<p>様式1_グループわ_運営</p>	<p>文化的なクラブ活動(絵画・陶芸・写真等)もあればよいと思う。</p>
<p>様式2_グループわ_交流行事</p>	<p>短時間の交流でしたが、個人的には刺激的な経験でした。 ゲーム等で作業に追われた感があるので、もう少し彼らとの会話が出来るメニューがあれば...</p>
<p>様式3_ライブ・シンセリテイ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生の座席を決めることが逆に運営の手間を増やしていることがあった。(自由席でよいのでは)(食事も) ・カレッジを受けて、受講生がどんな姿になってほしいかという「なりたい」をスタッフ全体で共有しておきたかった。
<p>様式4_部活動指導者</p>	<p>部活動はあえて違う部活動を体験する機会もあると良いと考える。</p>